



「私は、大変有難い人生を送ることが出来ました。それは師匠との出会いでした」このように話されたのは、ある古美術商の方でした。

「師匠は私にこれを良く観察してみなさいと古い陶器のかけらを渡して、それ以外に何も言われませんでした。後日また別の陶器のかけらを師匠から手渡され、以前渡したかけらと今渡したかけらとどう違うかわかるかと尋ねられ、返事することさえできませんでした。数か月たった頃でしょうか。渡された陶器のかけらを再び手に取って触ったり舐めたり嗅いだりと五感全てを使い比べてみたら、先に渡されたかけらと後に渡されたかけらが明らかに違うところがわかりました。師匠は、少し微笑んだように先に渡した物が有名な陶芸家の物で後の物は贋作だと教えてくださいました」

つまり、師匠は本物を見る目を養うためには、偽物もしっかりと観察しなければならぬことを教えられたのです。

仏教学者の安田理深師は「本当のものがわからないと 本当でないものを本当にする」と言われました。

さて、お念仏の伝統のなかで生きる私たちは、本当のものを見定めることができているのでしょうか。よき人との出遇いのなかで、確かめていきたいものです。